

大／阪／の／建／築／まちあるき——「堺」

てっぼうかじやしき
鉄砲鍛冶屋敷



建物全景



建物全景



建物全景



出格子

所在地： 堺市堺区北旅籠町西 1-3-22
最寄駅： 阪堺電軌阪線「高須神社駅」より徒歩10分、
南海本線「七道駅」より徒歩12分

◆内部非公開◆

居宅として利用されていますので外観からの
見学をお願いします。

建築概要

▶構造 切妻造 本瓦葺

桁行 18.116m 梁間 15.846m

▶堺市指定有形文化財 平成 16年 6月 24日

通称「鉄砲鍛冶屋敷」の名で知られている江戸時代から続く堺の鉄砲鍛冶井上関右衛門の居宅兼作業場兼店舗。

町家建築として最古の部類に属し、鉄砲の生産現場など鉄砲鍛冶屋敷の面影を残す唯一のものとして市の指定有形文化財になっている。種子島に伝わった鉄砲の製法を橋屋又三郎などが堺に伝えてから、堺は日本一の鉄砲生産地になった。現在、江戸時代の鉄砲鍛冶屋敷の面影を残す唯一の貴重な建築物になっている。「元禄二年堺大絵図」(1689)にも記載されており、わが国の町家建築としても最古の部類に属するとともに、堺を支えた鉄砲の生産現場が残されている建物としても貴重である。

大坂夏の陣の後、新たな町割が行われ現在に続く堺のまちが形成され、堺は鉄砲や包丁、織物などの製造業を中心に発達し商業のまちとしても成熟してきた。北旅籠町一帯、特に鉄砲鍛冶屋敷周辺は当時の面影を多く残し、切妻造、平入りの建物からなる当屋敷は、江戸初期の鉄砲鍛冶の生活のしるしである。

古い町並みが残っている第1の条件は戦災に遭わなかったことといわれている。その点で、堺市の市街地部分には歴史的な建物は案外少ない。かつての堺の町並みは太平洋戦争よりずっとずっと昔の大坂夏の陣(1615年)ですべて焼き尽くされている。あの今井町(奈良県橿原市)が「陸の堺」と呼ばれていたようだ。砲鍛冶屋敷周辺を歩いてみて、本家の堺に、かつてどんな町並みが広がっていたのか、調べてみたりするのもいいと思いませんか。

(七堂元敏)